

「ビューレックヘアフェスティバル」から振り返るザ・ビューレック創刊の時代

1980 10.19-10.20

「ビューレックヘアフェスティバル'80」
「オロ・インターナショナルヘアフェスティバル1980」に出演し好評を博したヘアスタイリスト協会(HS協会)の若手美容師8名とトニー&ガイのメンバーを招いて開催。ロンドンの舞台が東京で再現されるとあって美容業界を中心に全国から観客が集まった。会場は京王プラザホテル(東京都・新宿区)の「コンコードボールルーム」。当時、東洋一と謳われた規模を誇る大宴会場が連日満員となり、2日間で3,200人を動員した。

■出演アーティスト
日本ヘアスタイリスト協会(正宗卓、大沼孝三、柿本榮三、長田茂、鴨東三朗、鈴木鐵朗、西島彰、横溝恭哉)
トニー&ガイ(トニー・マスコロ、ブルーノ・マスコロ、アンソニー・マスコロ、アラン・ドイル、パット・ストック)



トニー&ガイの作品「スペースルック」。4作品とも全てモデルの地毛のみでつくられている。



ステージで技術を披露するアーヴィン・ラスク氏。



アーヴィン・ラスク・チームのステージPart1「ジャングル・ストーリー」の出演者たち。



80年のステージは、井上陽平氏が演出を担当。



「ビューレックヘアフェスティバル'81」公演後の記者会見の様子。右から4番目が石渡潔氏、5番目が滝川晃一氏。

宙吊りにしたモデルの髪をカットするヘンリー・エーベル氏。起き上がるとセミロングのレイヤーカットが完成していた。



左はモデル自身の髪でつくられた'80ステージ作品。インパクトあるヘアスタイルを引き立てるのは山本寛齋氏の衣装。左はステージで制作中の柿本榮三氏(左から2番目)と大沼孝三氏(右端)。



What's ORO?

イギリスのオロ・パブリケーションズが刊行していた『ORO VISION』は、世界的トップアーティストの作品を網羅する季刊誌。当時、最も権威あるヘアファッション誌とされていた。その主催する国際的ヘアショーが「オロ・インターナショナルヘアフェスティバル」だ。



「ビューレックヘアフェスティバル'80」のグランドフィナーレ。

THE BEAUTREC ARCHIVE

あの人も紙面に登場!

創刊初期の『ザ・ビューレック』では、今や美容の歴史に名を刻む国内外のレジェンドのインタビューや対談を行っている。そのいくつかをご紹介します。

1980年4月号・5月号

トニー&ガイ アンソニー・マスコロ氏

創刊第2号目の4月号で当時22歳のアンソニー・マスコロ氏への直撃インタビュー記事「PART1」を掲載。編集部はアンソニー自身が運転する「パンサー」で自宅に招かれ、話を聞く機会に恵まれた。カスタムメイドの愛車のこと、日本車の良さ、日本への思い、ショーやセミナーの後は必ず参加者と話し合いコミュニケーションをとることなどが語られている。「PART2」の5月号では1980年代に向けたトニー&ガイのコンセプトについて語り、具体的なポイントが写真と共に詳細に解説。最後に日本へのメッセージも添えられている。



美容業界が大きく変化する1980年、創刊された『ザ・ビューレック』。情報へのアクセスは今ほど手軽ではなかった時代に「ビューレックヘアフェスティバル」を開催し、紙面にとどまらず立体的に情報を発信してきた。当時のショーの様子を振り返ってみよう。

1982 10.18-10.19

「ビューレックヘアフェスティバル'82」
年々、増え続ける観客に対応するため、オープンしたばかりの新高輪プリンスホテル(東京都・港区)の「飛天の間」に会場を移し、より大規模なスペースでの開催となった。巨大スクリーンで各アーティストのテクニックを映し出すとともに、大空間を活かした演出で観客はショーを堪能。動員数はさらにふくれあがり、2日間で5,000人となった。

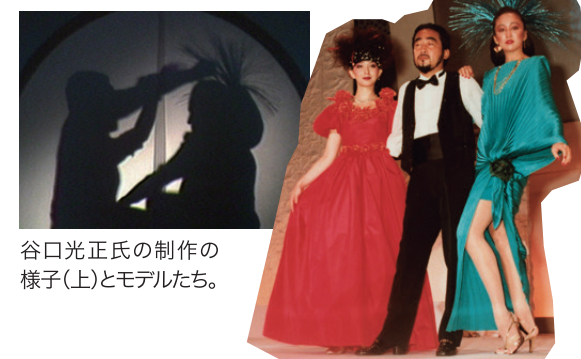
■出演アーティスト
CAT日本 東京支部(谷口光正、萩原宗、松井東夫、エディ今村、嶋ヨシノリ、佐藤啓)
ジャック・デサンジュとそのグループ(ダニエル・コンテ、ミシェル・キヤマン、チェリー・フェルナンデス)
サンリッツ・グループ(オジー・リッツォ、リッキー・リッツォ、トニー・リッツォ)



モデルをエスコートするCAT日本のメンバー。左から佐藤啓氏、谷口光正氏、松井東夫氏、嶋ヨシノリ氏、萩原宗氏。



ステージで作品を制作する嶋ヨシノリ氏(左)と萩原宗氏(右)。



谷口光正氏の制作の様子(上)とモデルたち。



イタリアから招かれた「フレンズン」のアンジェロ・ポリ氏。



ユニセックスサロンの創始者ともいわれる「スマイル」のキース・ウエンライト氏は、「バンクヘアの鬼才」の異名をとる。



フランスから招かれたジャック・デサンジュ・チームのチェリー・フェルナンデス(左)、ミッシェル・キヤマン(中央)、ダニエル・コンテ(右)。



スティックをかんざしのように使って巧みにアップスタイルをつくる堀部美行氏(上)と、豪華な打掛けでつくったドレスをまとうモデル(右)。



サンリッツ・グループのステージで目を引いたのはロンドンで人気のダンサー、ティク&タック。

1983 10.17-10.18

「ビューレックヘアフェスティバル'83」
日本、イタリア、アメリカ、イギリス、フランスと5カ国もアーティストを招いて開催された。会場は前年に引き続き、新高輪プリンスホテル。ステージは、各アーティストへのインタビューと実演をとおして技術や経営、各国のトレンドを聞き、さらにチームごとのショーを展開する構成。客席には「ファッション通」として知られた当時の駐日フランス大使夫人の姿も見られた。

■出演アーティスト
堀部美行と日本チーム
アンジェロ・ポリとフランス
ドナルド・スコット
キース・ウエンライトとスマイル
サンジェル



1980年8月号

モデル 山口小夜子氏

切れ長の目と黒髪のボブスタイルで世界を魅了し、1970年代から欧米のランウェイで活躍していたトップモデルの山口小夜子さん。編集部は「ティファニー ジュエリーコレクション」でメインモデルを務める山口さんに、ショーの合間をぬってインタビューしている。デビューのきっかけ、ハーフモデル全盛時代の苦労、「コンプレックスのかたまり」という意外な言葉など、素の山口さんを伝える記事となっている。



1981年3月号

芝山みよか氏

当時、日本エステティシャン協会(現・日本エステティック協会)の会長を務めていた芝山みよか氏と、本紙の当時の発行人・滝川和秀との対談記事を掲載。「エステティック」という新しい産業が徐々に根をおろし始めている現状を踏まえて、日本のエステティックに何が求められているか、今後の課題は何か、また1980年に初めて日本で開催された第34回CIDESCO世界会議の成功などが語られている。

